

夢のつばさプロジェクト

2025年夏キャンプ 学生報告書

【日程】 2025年8月2日(土)～4日(月)

【開催地】 TEPIA先端技術館（港区北青山）、(株)ブリヂストン保養所 奥多摩園(青梅市)

【参加者】 子ども：7名(高校生3名、大学生4名)

学生・OB/OGスタッフ：21名（途中入れ替わりも含む）

社会人スタッフ/協力者10名

◆2025夏キャンプについて

夢のつばさの夏キャンプは、変わらぬご支援・ご協力をくださる企業・個人の皆さまのおかげで、今年も無事に開催することができました。心より感謝申し上げます。今回のキャンプでは、夢のつばさプロジェクトが子どもたちにとって大きな存在であることを改めて実感できる3日間となりました。

私たちは団体理念である「長期的な子どもへの支援」に基づき、学生や社会人スタッフとの関わりを通して安心できるつながりや信頼関係を築くことを目指し、キャンプの準備や当日の関わりを進めました。また、「子どもたちの夢の実現」という理念に沿って、子どもたちが家庭や学校とは異なる視点から将来について考え、進路の選択肢を広げ、「社会」を意識するきっかけをつくることを目的として企画を立案しました。期間中は、世代を越えた交流や対話を楽しむ姿が見られ、子どもも学生も真剣にレクリエーションに取り組んでいました。「普段考えなかった視点から意見をもらえた」「スタッフの真剣な話を聞けて良かった」といった感想も多く寄せられ、自由時間には進路や学校の悩みをOB・OGや学生スタッフに相談する様子も見られました。このことから、キャンプの目的が交流を通して達成されていることを実感しました。

以下に、今年度夏キャンプの詳細をご報告いたします。

◆スケジュール・概要

	1日目（8月2日）	2日目（8月3日）	3日目（8月4日）
午前	送迎	レクリエーション活動	閉会式
午後	TEPIA先端技術館見学	勉強時間 自由時間 レクリエーション活動	送迎
夜	開会式、TEPIA見学振り返り	岩城先生によるワークショップ	

<1日目>

◆TEPIA先端技術館見学

はじめに現在の日本における最新技術について、TEPIAスタッフに説明をしていただきました。普段の生活ではなかなか聞くことができない最先端の技術を、実際に目で見たり、ボタンを押して機械を動かしたりしながら学びました。



続いてプログラミング体験では、タブレット端末を使って作成したプログラムでボールを動かす活動を、学生と子どものペアで行いました。学校で学んでいる情報の授業と関連づけながら楽しむ姿や、高校生と大学生という年齢の近さから、フランクに協力して活動する様子が見られました。自由見学時間には、大阪・関西万博に合わせた展示なども見学しました。身近な製品に使われている「ナノセルロース」という素材の活用例を体験できるブースもあり、終始、子どもたちが驚きの表情を見せたり、真剣に解説を読んだり自分から質問する姿が印象的でした。また、今回の訪問は2018年度以来でしたが、子どもたちの中には当時の体験を覚えている子も多く、「前はこんなことをしたよね」と振り返りながら展示を楽しむ姿が印象的でした。

◆開会式

開会式では、キャンプのルール説明や自己紹介の後、先生方からご挨拶をいただきました。その後、学生スタッフより今回の夏キャンプの目的と、キャンプを通して子どもたちに考えてほしいことについて説明がありました。学生スタッフは、学校卒業後に環境が大きく変わる要因のひとつとして「異なる世代との交流」があると考えており、世代間の共通点や違いを認識することで、世代を越えたつながりや対話を楽しめるようになることを目指しています。

◆TEPIA見学振り返り

TEPIAの振り返りは、見学した内容をもとに3チーム対抗で行いました。具体的には、各自が印象に残ったことについて質問と答えを紙に書き、箱から読み上げられた質問に対して本人以外が早押しで答えるというクイズ形式です。開始前には、グループごとに見学内容や学び、実生活での活用例などを話し合い、社会人スタッフや学生、子どもたちが一体となって振り返りを行いました。クイズでは、説明を受けた内容だけでなく体験ブースでの経験など多様なテーマが出題され、答える側も楽しみながら参加していました。

今夏の見学に際しては、現在、TEPIA顧問でいらっしゃって、夢のつばさの活動の開始当初から大きなご支援をくださっている武涛様にいろいろとご助力をいただきました。今回、振り返りの会にも参加され、「細かいところまでよく見て楽しんでくれて、良い見学だった。皆の成長を感じた。」と温かいお言葉をかけてくださいました。

<2日目>

◆自己紹介フルーツバスケット

アイスブレイクを兼ねて「自己紹介フルーツバスケット」を行いました。「〇〇が好きな人！」というように自分の好きなものなど身近な自分の情報を積極的に共有することで、他の人との共通点を見つけるきっかけとなりました。学生スタッフが全力でゲームに挑んでくれたおかげで、スタッフ・子ども・初参加の学生が一気に打ち解ける様子が見られました。



◆職業人狼ゲーム

各チームの代表者が「ウソの職業」になりきり、質問や推理を通して本物の職業を見抜くゲームです。実際に経験していないと分からないことや、テレビドラマや小説で見聞きする一面しか知らなかった職業について、新たな発見がありました。似ている職業同士の違いや、表に出ない仕事の側面に興味を持つ子も多く、年齢層が高めなこともあり、ルールを理解したうえで駆け引きを楽しむ姿が見られました。

◆ジェネレーションイントロドン

1980年代、2000年代、2014年頃のヒット曲を使ったイントロ当てクイズを行いました。選曲は、社会人協力者やOB・OGスタッフ、学生と子どもたちの世代を反映させた構成です。曲を当てるために自然と世代を超えて協力し合い、普段あまり話す機会のない社会人協力者とも一緒に盛り上がることができました。



◆YES／NO 進路フラッシュ

企画の最後であるYES／NO 進路フラッシュではスライドの問いにYES／NOのプラカードで一斉回答し、その理由や体験談を共有する形式で進行了しました。3グループで約1時間の対話を行い、その後シャッフルした別のグループでも行いました各グループでスタッフの世代や背景の違いを活かし、「いろんな大人がいる」「こんなふうな進路もあるのか」という気づきや出会いが生まれるよう、一人ひとりの話に耳を傾けながら話を展開していました。想定時間を過ぎて「もっと話したい」という声があちこちから上がるほど盛り上がり、子どもも学生も真剣に社会人やOB・OGスタッフの話を聞き、自分の考えを整理していました。

「前のグループでは出なかった意見を聞けた」「人の話を聞いて考えが変わった」など、多くの収穫があったようです。このテーマについては、自由時間にも引き続き語り合う姿が見られました。

◆勉強時間

昼食後の1時間を勉強時間とし、学校の夏休みの宿題などに取り組みました。それぞれが持参した教材を使い、スタッフに質問したり集中して課題を進めたりしていました。留学生の学生スタッフに英語を教えてもらう場面や、理系職に就いているスタッフから数学や物理を学ぶ



場面もありました。特に学生スタッフは、数年前まで高校生だったこともあり、自分の経験をもとに勉強方法や時間の使い方についてアドバイスする姿が見られました。

◆自由時間

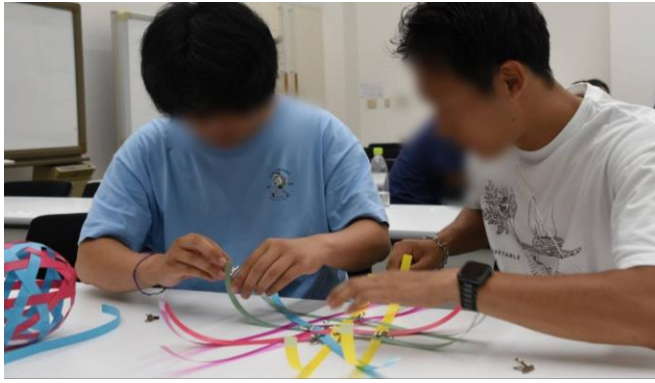
自由時間には宿泊棟の卓球で子ども、スタッフ混合で白熱した試合を楽しんだり、大人数で盛り上げられる人狼ゲームを通して交流を深めたりしていました。また、OB・OGスタッフや学生スタッフと進路選択や勉強について相談をしたり、大学時代の経験談や職業キャリアについて話したりと充実した時間を過ごしていました。



◆岩城先生によるワークショップ

二日目の夕食後、東京電機大学の岩城先生のご指導の下、多面体を編んで作る「PPバンドボール」を製作しました。授業では、高校数学で学ぶ多面体の定理の一つであるオイラーの定理を導入に、C60フラーレンなどの多面体についてわかりやすく解説してくださいました。また、岩城先生が実際に制作に携わられた大阪・関西万博でのパビリオンへの活用例など、最新の事例も伺うことができ、子どもたちは熱心に話を聞いていました。その後のボールづくりでは、子どもとスタッフが二人一組になって作業しました。完成の早いペアは周囲の人に積極的に教えるなど、子どもがスタッフへ手伝う場面もあり、協力して取り組む姿が印象的でした。





岩城先生は、これまでも何度も夢のつばさプロジェクトで大きな作品制作をご指導してくださっており、今回のものとも関連する制作物などの写真もたくさん見せてくださいました。高校生や大学生も、自分や仲間の小さいころの姿を見つけてうれしそうでした。



(2017年の冬キャンプでの製作物)

<3日目>

◆閉会式

3日目の朝食後にセミナールームで閉会式を行いました。この企画の集大成として10年後の自分への手紙を書く時間を設けました。現在の悩みや迷い、10年後への自分に向けた目標、問いかけなど自由に書いていました。子ども以外にスタッフた



ちも皆で取り組みました。その後子どもたち同士や子どもたちからスタッフへメッセージを書く時間を設けました。時間ぎりぎりまでメッセージカードを書き続ける子どもたちの様子や自由時間にたくさん書いていてほぼ全員に渡す様子からスタッフと子どもたちや子どもたち同士のつながりをよりいっそう感じることができました。

◆夏キャンプを終えて

キャンプ直前には台風や猛暑など様々なリスクが心配でしたが、全員無事に夏キャンプを終えられ、心からほっとしています。

これまでは代表の先輩方を支える立場でしたが、今回は企画部長兼学生代表としてキャンプの準備を担当しました。学生としての裁量の大きさに驚くと同時に、自分の考えを形にできる充実感を感じながら準備を進めました。準備を通して、この団体が歴代の先輩方や社会人スタッフ、支援者の方々など、多くの方に支えられて成り立っていることを改めて実感し、深い感謝の気持ちを抱きました。特に、企画や準備へのアドバイスから、スタッフの皆さんが子どもたちのことを深く広い視野で考えていることが伝わり、14年間築かれてきた信頼関係や安心できる居場所づくりの努力のおかげで、今回も子どもや元・子どもが継続的に参加してくれたのだと強く感じました

年々、子どもたちの成長により学生スタッフとの年齢差が縮まり、高校を卒業する子も増えて子どもとして参加する人数も減少しています。その中で、高校生の子どもたちにこの団体の強みを活かし、何を提供できるかを常に考えてきました。世代やキャリアの異なるスタッフが集まり、中高生の子どもたちが参加するという環境だからこそ実現できた企画だと思います。子どもたちの目線で「楽しめる企画」「学びになる経験」とは何かを模索しながら、準備を重ね、最後まで企画を練り直しました。当日に子どもたちやスタッフが積極的に楽しむ姿を見て、長期間の準備が報われた喜びでいっぱいでした。

今回の夏キャンプが無事に成功したのは、ご支援・ご協力をくださっている企業・個人の皆さまはもちろん、準備についてご指導くださったOB、OG、社会人スタッフの皆さまやブリヂストンの方々、快く迎えてくださったTEPIA館、奥多摩園の皆さまのおかげです。改めて感謝申し上げます。今後も子どもたちが安心して楽しめる場所を提供できるよう、スタッフ一同努力してまいります。

夢のつばさプロジェクト学生代表 お茶の水女子大学2年 吉野歩海